

「人はなぜ老いるか」を読んで

帯刀益夫先生を囲んで座談会

4月号から「人はなぜ老いるか」をテーマに、東北大学名誉教授の帯刀益男先生から連載していただいている。

大変興味深い内容で、「次の号の発行が待ち遠しい」との声をいただいています。

このほど、読者の皆さんに集まつていただき、帯刀先生を囲んで座談会を行いました。2時間にわたって、多くの疑問・質問に答えて頂きましたので、その内の何点かを紹介します。

親からの遺伝子に

関心がありますが

○ヒトのたんぱく質の種類は2～3万ほどあり、それぞれ個性を持ち多様の性質と機能を持ち、体のすべてを維持しています。遺伝子は情報が詰まっています。その実態はDNAです。たんぱく質を作っている20種のアミノ酸を20色のクレヨンに変えて平面に描くと、情報が絵になるソフト作成してもらいました。高瀬中学校の課外授業で実験しました。

そんなことを通じて遺伝子を理解できると思っています。遺

伝子に異常が起こると病気に

なり、それが生殖細胞に影響し子供につながります。

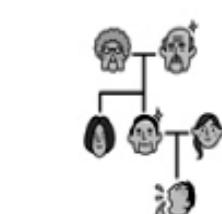
○親の遺伝子の情報はそのまま子供につながっていきます。

子供はゼロから誕生するのではなく、親の細胞を受け継いで個体として別になつただけです。

時々遺伝子に変化が起きて、新しい機能を生み出すことがあります。生存しやすい変化を持つものだけが生き残り、これが何億年も続いて今の私たちがあるのです。

遺伝子に変化が起きなければ

ば、海の中のバクテリアで終わっています。



親からの遺伝子は

異が生じます。

普通細胞に変異が起ることそ

の細胞は死にますが、がんは異常な増殖を繰り返す細胞へと変

身します。

○しかし細胞には遺伝子にでき

た傷を治す修復酵素があるの

で、この働きで遺伝子の変異を抑えることができます。それで

も年齢が高くなるほど変異が多

くなり、長寿化とがん化は宿命になります。

○地球上に酸素過多であつた

時、それを除去し耐えられる細

胞だけが残つた。福島原発で出

た放射能も同じで、古い時代か

ら放射能を浴びて生き残つてき

た細胞は、保護システムを持つ

ことがあります。物理学的現象として

受け取るだけでなく、細胞の戻

す能力があることを考える生物

学的捉え方の違いがあります。

○日本は大学院でドクターを取

得了。研究室での環境・資材・

資金力などまるで違いました。

また物の見方や考え方、日

本を外から見ることができたことが大きかったです。科学の発表は英語でやらなければ世界で認められません。コミュニケー

ーションも図れました。

自由な発想で個性を發揮でき

ますが、競争的社會で結果を出さなければ捨てられるよう

ことがあります。

○日本もそのような方向になっ

てきています。

○日本もこの競争、研究費の争奪戦で限られたトップの人た

ちは有利ですが、研究は幅広く行われるので中堅どころの手当ても重要です。

○日本は大学院でドクターを取

れば、一応研究者となります

臨時雇いで研究し成果が出ると

いいですが、いつまでも下積みの研究をせざるを得ない人だらけ

という現状です。

○日本は大学院でドクターを取

得了。研究室での環境・資材・

資金力などまるで違いました。

また物の見方や考え方、日

9月議会で町立美術館が来年4月から指定管理者制度へ移行することが決まりました。

指定管理者制度は、公的施設を株式会社やNPO法人などに運営を代行させる制度で、現在、この制度で運営されている町の施設は、ハーブセンターと福祉会館です。

町は、この制度導入を9月議案として、突然提出してきました。それによると、指定管理者の収入となります。

町は美術館の経費は年間1,300万円程度かかるおり、指定管理者制度に移行することにより、経費の削減を図りたいと説明しました。

管理者募集は、10月に公募し、11月に審査、12月の議会議決で決定するというものでした。

平成19年に「芸術文化によ

町立美術館 来年4月から 指定管理制度へ移行

9月議会で町立美術館が来年4月から指定管理者制度へ移行することが決まりました。

指定管理者制度は、公的施設を株式会社やNPO法人などに運営を代行させる制度で、現在、この制度で運営されている町の施設は、ハーブセンターと福祉会館です。

町は、この制度導入を9月議案として、突然提出してきました。それによると、指定管理者の収入となります。

町は美術館の経費は年間1,300万円程度かかるおり、指定管理者制度に移行することにより、経費の削減を図りたいと説明しました。

管理者募集は、10月に公募し、11月に審査、12月の議会議決で決定するというものでした。

れ、4月から実施するというものです。

町共産党議員団は、1年かけ

てこれまでの経過を町民、議会、行政で検討し、美術館のあり方について意見を集約したうえで結論を出すべきであると主張しました。

た。町民の財産を町民の意見を十分に聞かず、経済面だけで短期間に判断する今回の指定管理者制度導入に反対しました。

議案は賛成多数で可決しましたが、議員発議として10項目の付帯決議（年度ごとの実績報告などを）をつけました。服部久子

前からありましたが、具体的な話がないまま突然議案として出さ

▼今年は介護保険が始まって15年目。3年ごとに保険料の見直しが行われている。発足時月額1,870円だった平均保険料が現在は2,6倍の5,000円になつており、来年度から始まる第6期でまた、1,000円近く引き上げとなる予定だ。この調子だと後10年で月額1万円時代が到来する。▼原因は、介護が必要とする人たちが増えているのに、国の負担割合はずつと25%のままに据え置かれているからだ。「消費税は全部社会保障に使います」と言って引きあげたのに、▼私は来年度からの事業計画を決める「介護保険事業計画作成委員会」に公募委員として参加していく「国」の負担を増やすように要求しよう」と提案するが26人の作成委員誰からも賛成はない。▼介護度の低い人は介護保険からはずして地域の支援事業に移すというが、今までと同じサービスを受けられる見込みはない。▼これで先進国と言えるのがあるのに本当に情けない。皆で声をあげる以外に方法はない。